



研究紀要発刊にあたって

胆振教育研究所長 安宅 錦也

将来の変化を予測することが困難な時代には、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要となります。そのためには、自らの人生や社会における答えが定まっていない問いを受け止め、多様な他者と議論を重ねて探究し、自ら自分なりの答えを見出し、相手にも理解してもらうための資質・能力が求められると言えます。そのような資質・能力の土台であり目標でもあるのが「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」であり、道徳性の育成はこのような観点からますます重要となってくると言われています。

このような中、これからはじまる道徳科においては、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通じて、内面的資質や能力としての道徳性を主体的に養い、日々の生活や将来における道徳的行為や習慣に結び付けるという「特別の教科」としての特質を踏まえた質の高い多様な指導を行うことが求められていくことになるでしょう。

本教育研究所では、小学校平成30年度、中学校平成31年度の道徳科の実施に向け、道徳教育の意義を押さえながら、児童生徒の道徳性を育むための道徳教育の充実に向けた取組の研究を深めていきたいと考え、平成27年度から3か年計画で「子どもの道徳的実践力を高める道徳教育の充実 ～道徳科を要とした取組を通して～」を研究主題に設定し、研究を進めております。

2年次目となる今年度は、1年次目の教科化への教育課程の編成を踏まえつつ、道徳科で求められる質の高い多様な指導過程について実践例を紹介させていただく形としました。各学校において、本研究紀要が活用され、校内研修はもちろんのこと、各先生方の日常の教育活動が充実したものとなるよう、ご期待申し上げます。

終わりになりますが、本研究の推進にあたり、ご指導とご協力をいただきました胆振教育局をはじめ、管内市町教育委員会並びに各市町教育研究会、そして貴重な授業実践をいただきました本教育研究所研究委託校・実践校の皆様、さらには実践資料を提供いただきました各先生方に心より敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。研究紀要発刊にあたっての挨拶といたします。

目次

研究紀要巻頭言 「研究紀要発刊にあたって」

胆振教育研究所長 安宅錦也

| | | |
|-----|------------------|----|
| I | 研究の構想 | 1 |
| 1 | 研究主題 | 1 |
| 2 | 研究主題設定の理由 | 1 |
| 3 | 研究内容 | 2 |
| 4 | 研究計画 | 2 |
| 5 | 全体計画 | 3 |
| II | 研究内容 | 4 |
| 1 | 道徳の教科化 | 4 |
| 2 | 道徳教育の目標・道徳科の目標 | 5 |
| 3 | 道徳教育の推進（教育課程の編成） | 9 |
| 4 | 道徳科の授業づくり | 13 |
| 5 | 多様な指導過程 | 16 |
| 6 | 道徳科の評価 | 30 |
| | 【コラム】 道徳科の誤解 | 35 |
| III | 研究を振り返って | 36 |
| | ◆参考文献、資料一覧 | 37 |
| | ◆研究・執筆 | 37 |
| | あとがき | 38 |